

追悼文

千住先生を悼む

去る9月2日、当学会フェローであり元副会長であられた慶應義塾大学名誉教授千住鎮雄先生が亡くなられました。7月14日に喜寿のお祝いを病床でされた後のことでした。

先生は2月に心臓の病を得られ、3月に病院に入院されましたが、ご自宅に帰られることを強く望まれましたので、病院の制止を振り切って、ご家族がご自宅に連れ帰られました。その後は、一家でのご看病を受けられました。ご承知の通り、ご長男博さんは日本画家、ご次男明さんは作曲家、ご長女真理子さんはバイオリニストの多忙な芸術家ご一家でしたが、奥様を中心に、皆さま協力してご看病されました。特に、長男の博さんはニューヨークと横浜のご自宅の間を何度も往復されました。たいへんお心優しく先生は、お見舞いに伺う弟子達のことを気づかわれて、苦痛があまりになっても笑顔を作られて、「もういいからお帰りなさい」とおっしゃられました。

先生はいつも笑顔を決やさず、優しい態度で我々弟子達をお導きになりました。先生は極めて公平な方で、私達は先生に叱られたことがありませんでした。「僕はこう思うが、君はどう思うかね」というおっしゃり方で、我々の誤りを正していただきました。学生に仕事を命じられる時でも、かならず「すまないけどねー」とおっしゃってから仕事をおいつけになりました。会合があると、その支払を皆の知らない間にご自分で済まされていきました。形式的なことがお嫌いで、権威主義が大嫌いでした。選挙がありますと、落選運動を命じられました。研究室の本棚の本の後ろに、各種の洋酒を隠しておられ、我々がよい仕事をした時は、いつ洗ったかも知れない茶わんにそれを注がれ、「まあ一杯」と、褒めていただきました。

私の千住といわれた方が、私の私になられてしまいました。ご冥福をお祈り申し上げます。

(川瀬武志)

「OR用語辞典」の刊行（冊子体）

本学会創立40周年記念事業の一つである新編「OR事典2000」が発刊されましたが、この「OR事典2000」は、「基礎編・用語編・事例編・資料編」からなっております。「OR用語辞典」は、そのうち「用語編」を冊子体としてまとめたものであります。ORを学ぶ学生や研究者・実務家が座右において活用できることを意図したもので、その利便性は、必ずやご期待に沿えるものと思います。

(本書の内容)

ORに関連する用語約1,600語を取り上げ、それらに欧文訳と200字程度の簡潔な説明を付したものを五十音順に並べ、巻末には和文索引と欧文索引を付しています。

(発行所)

㈱日科技連出版社 (A5版・260頁・本体価格2,600円)

(購入方法)

お近くの書店でお求め下さい。

本辞典ご購入についてのお問い合わせは、以下へ。

㈱日科技連出版社 TEL 03-5379-1238